

三の丸尚蔵館 新棟イメージ図（Ⅰ期棟+Ⅱ期棟）



大手門側から見たイメージ



全景イメージ

三の丸尚蔵館について

平成元年(1989)6月、上皇陛下及び香淳皇后は、昭和天皇まで代々皇室に受け継がれてきた御物の中から、約6千余点の絵画・書・工芸品などを、国へ御寄贈になりました。

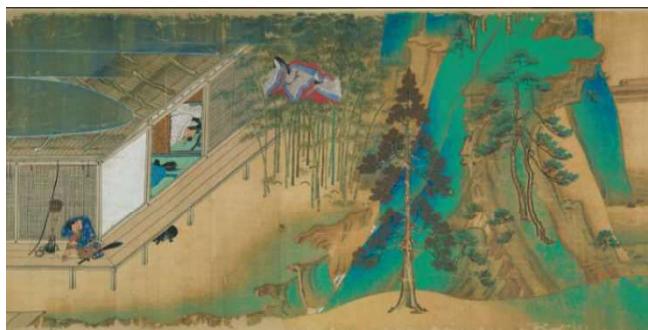
これら御寄贈品は、一括して宮内庁で管理することとなりましたが、優れた美術品が多く含まれているため、その保存管理に万全の策を講じるとともに広く国民に公開するために、専門の建物、組織を設置することになりました。

建物は平成3年(1991)1月着工、同4年(1992)8月竣工、三の丸尚蔵館と名付けられ、ここに作品を収蔵するとともに、同5年(1993)11月3日より一般展示公開が始まりました。

その後、平成8年(1996)に旧秩父宮家からの御遺贈品が、同13年(2001)には香淳皇后の御遺品が、同17年(2005)には旧高松宮家からの御遺贈品が、さらに同26年(2014)には三笠宮家からの御寄贈品が加わり、現在は約9千8百点の作品を収蔵しています。

三の丸尚蔵館の建物は、これらの貴重な作品を恒久的に伝えていくための保存を重視することから、温湿度管理のできる収蔵庫を備え、一部を展示室として公開しています。そして、専門的な調査研究を行い、また今後は修理などの保存措置を講じながら、その成果を広く公開していくために、活動を進めていきます。

収蔵品の例(令和3年度国宝指定作品)



高階隆兼「春日権現驗記絵」(鎌倉時代)



小野道風「屏風土代」(平安時代)



「蒙古襲来絵詞」(鎌倉時代)



狩野永徳「唐獅子図屏風」(桃山時代)



伊藤若冲「動植綵絵」(江戸時代)